

## 令和5年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：令和5年9月1日（金） 午後1時30分～3時30分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 3人出席

委員長 小島 道裕

委員 鈴木 一彦

委員 小玉 理恵子

委員 島立 理子

（教育委員会）

生涯学習部 齋木部長

文化財課 君塚課長、蚊谷室長、森本主査

（事務局）

加曾利貝塚博物館 神野館長、後藤副館長、長原主査

郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

### 4 議 題

（1）令和4年度の事業報告について

（2）その他

### 5 議事概要及び議事結果

（1）令和4年度の事業報告について

加曾利貝塚博物館と郷土博物館からそれぞれの令和4年度の事業報告について説明し、各委員から意見が出された。

（2）その他

文化財課より、新博物館整備の進捗状況と改正博物館法の施行に伴う博物館登録に関する規則改正、第71回全国博物館大会について報告し、質問を受けた。

### 6 会議経過

錦織主査の司会進行により会議が開会。会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していること、千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開していることを告げた。続いて齋木部長が挨拶を行い、事務局職員を紹介した後、小島委員長を議長として、会議が進行した。

#### 議事（1）令和4年度の事業報告について

< 説 明 >

加曾利貝塚博物館と郷土博物館から令和4年度の事業報告について説明した。

< 質疑応答等 >

- 小島委員長        ただいま事務局から説明があったので、委員から質問や意見をいただきたい。まず、加曽利貝塚博物館について質問や意見をお願いしたい。
- 鈴木委員         両館とも Twitter（現：X）を活用されているとのことだが、フォロワー数と発信の頻度、こういった機会に発信しているのかについて教えてほしい。
- 後藤副館長        現在のフォロワー数は約 3,300 人である。更新頻度は、行事などがある際にその都度載せているので、最低でも週に 1 回は発信している。
- 鈴木委員         それと関連して、館内の写真撮影はどの程度許されているのか。
- 後藤副館長        館内で来館者が写真撮影することは自由である。
- 鈴木委員         今の 20～30 代の方々の情報源は SNS が主流になっているので、SNS に力を注いでいくことも重要である。そのために写真撮影がどのくらい可能かが大切である。写真を撮影してすぐに発信しようという人が多く、それによって博物館の情報が拡散される。写真撮影が自由ということであればかなり使っている人も多いのではないかと。また、現在は Twitter だけだと思うが、他にインスタグラムなど人によって使っている SNS が違うので、セキュリティ的な面もあるかもしれないが、少し幅広にすることも検討してもらえればと思う。
- 天野館長         郷土博物館のフォロワー数は現在約 3,700 人である。内容は開催中の企画展の資料紹介や近隣の案内、ホームページの更新案内など、およそ 1 日おき程度には発信している。
- 鈴木委員         両館に共通するが、SNS に写真などを掲載すると思うが、特に資料などを発信したときにそれに対してどのような反応があるかを見ることで、実はそれがマーケティングになる。皆が何を求めているかをつかめる可能性がある。また、書き込まれたコメントなどもかなり重要だといわれており、開催中の展覧会に対する反応や現在計画中の展覧会についても情報を発信することで、企画への反応はどうかを事前にチェックできる可能性もあるので工夫して使ってほしい。
- 小島委員長        写真撮影については 2 段階あると思う。自由といっても個人的な利用の範囲で自由なのか、SNS などを通して外に発信するところまで自由なのかでは意味が違うと思う。両館の場合はどうか。
- 神野館長         加曽利貝塚博物館では、個人利用については SNS への発信も含めて自

由であるが、報道や出版物、放送関係については許可申請をもらっている。YouTuber の場合はどちらに当たるのか判断が難しいが、現状ではそうした場合も申請をもらっている。

天野館長 郷土博物館では、撮影禁止の資料について個別に撮影禁止マークをつけている。それ以外のものについては個人で撮影してSNSで発信しても構わないこととしている。

小島委員長 写真撮影が可能であることをどこかに書いてあるとよい。営利関係になると許可を取ってもらうことなると思うが、そうでない場合はSNSで発信することについても自由である旨を書いてあると発信しやすくなる。

鈴木委員 他館の例では、SNSでの発信OKという表示だけでなく、ハッシュタグやQRコードを表示することで、発信してもよいことがわかるようになっていところもある。SNSで発信してもらえれば無料の広告になるとも言えるので、積極的にアピールするべきと思う。

小島委員長 よくできたツイートがあったら館でリツイートするとツイートしても良いことがわかると思う。私も両館のTwitterを見ているが、ホームページと連動しているのはすごくよい。ホームページをアップしたというお知らせがあるとそちらも見ようという気になる。有効な使い方をしていると思う。

島立委員 Twitter がXになって登録していない人が見られなくなった。県の中央博物館でもTwitterを使っているが、これまで誰でも見られたTwitterだったので広報手段として公的施設が用いても問題ないと考えていたが、Xになって、特定の登録者しか見られないものを広報として使うことがどうなのかという意見も出てきている。そのあたりはどう考えているか。

神野館長 今、Twitter といつかXという会社自体が安定した状態ではないため、様子を見ている状況である。

天野館長 当館でも、X社の今後の対応について様子を見るしかないと考えている。一時期に比べてフォロワー数が増えていないのは、同社の対応の変化も原因の一つではないかと思う。

島立委員 最近の若者が使うSNSはTwitterではないのかもしれない。

天野館長 今年、博物館実習に来た大学生に聞いたところ、今の若者が見ているのはティックトックで、Twitterのように自分からアクセスするものではない

く、来るものを見ているということだった。実情はそうなのかもしれないが、なかなかそこまでの対応はすぐには難しいと思っている。

小島委員長 実習生に作ってもらってはどうか。

齋木部長 市としてTwitterなどSNSの利用には制限を設けているので、チケットなども含めて自由に使えるわけではない。

島立委員 加曽利貝塚博物館では、縄文ひろばなど様々なイベントを実施しているが、ボランティアの方々はそうしたイベントで活動しているのか。

神野館長 縄文ひろばは月2回、ボランティアが主体となって実施している。40人くらいのボランティアがガイドと火起こしなどの体験、館内解説などを手分けして行っている状況である。

島立委員 ボランティアの代替わりは上手くいっているのか。

神野館長 今のところ抜ける人よりも入る人の方が多い状況である。

小島委員長 非常に多くの事業を行っているが、今こうした事業を実施したという報告はあったが、やってみてどうだったのかという自己評価的な部分について教えてほしい。特に展示についてどのように自己評価しているか。あるいは見学者の反応はどうだったのか。

神野館長 展示についてはアンケートをとっているわけではないが、来館者から質問や意見を言ってくることがあり、そうした際の反応は概ね好評である。特に秋の企画展についてはここ数年一つのテーマを決めて開催しており、それを目当てに来館される方々もいる。こうした一つのテーマと突きつめて、一定期間やるという取り組みは効果が高いと考えている。

小島委員長 昨年度だと「縄文土器の技と美」がそれに当たると思うが、既に新博物館の建設が視野に入っていて、それに向けて企画展のテーマを考えているというようなことはあるか。

神野館長 基本的に今行っている企画展はすべて新博物館を視野に入れたもので、関係する資料調査も含めて企画している。土器製作の問題についても新たな知見が出てきており、これを新博物館でどうやって取り込んでいくのか一つの試みの展示という位置づけである。

小玉委員 小学校では今年コロナが5類に移行してから公共交通機関を使うことが

できるようになり、6年生が加曽利貝塚にお世話になった。以前は列で移動していたが、今回は5人グループにボランティアが1人ずつくらいついて、多くの資料があるなかを上手に案内していただいた。火起こし体験も丁寧に指導していただき、感激した。多くの資料がある中で小学生向けにここを中心的に案内してほしいなどの指導はされているのか。それともそれぞれのボランティアに任せているのか。

神野館長 基本的なガイド内容については館でマニュアルを作っていて、それに従っていただくようにはしている。しかしボランティアにはそれぞれの思いがあるので、そうした部分が出てこないということではない。経験豊富なボランティアもおり、そうした方は年齢層や子どもたちの反応によってガイドの仕方を変えるなど工夫している。しかし、基本的な部分については統一している。

小島委員長 他に加曽利貝塚博物館について何かあるか。なければ次に郷土博物館について質問や意見をお願いしたい。

天野館長 先程の小島委員長の質問は当館にも関わることなので、はじめにお答えする。郷土博物館では特別展、企画展についてはアンケート用紙を会場に置いている。ただ、これは全員に書いてもらえるわけではない。よほど良いと思っていただいた方か、全くだめと思った方かのどちらかである。全くだめというアンケートは見たことがないので、概ね好評だと考えている。最終的に集計したものを館内で共有しており、次に活かせる意見については取り入れていくということはやっている。他に展示を見に来た知り合いなどに意見を聞いて参考にすることもある。

小島委員長 加曽利貝塚博物館では特にアンケートはとっていないということだったが、やはり取った方がよいと思うので検討してもらいたい。

鈴木委員 令和4年度の入館者数がかかなり増えた原因として、様々な媒体で紹介されたという説明があったが、具体的にはどのような媒体だったかを教えてほしい。

芦田副館長 NHK大河ドラマの最後に関連する史跡を紹介する部分があるが、その中で当館が紹介された。他に千葉銀行の広報誌などでも取り上げていただき、それらを見て興味を持って来館された方も多くいた。

島立委員 資料収集保管の中で、資料のデジタル撮影を進めたとあるが、博物館法の改正でデジタルアーカイブの推進が叫ばれるようになってきているが、資料の公開等については、今どのように考えているか。

芦田副館長 将来的には公開する方向に行くと考えているが、現在は担当職員が内部での記録や検索のために撮影している状況である。これをデジタルアーカイブとして公開するためにはそれなりの費用が必要になるので、今後検討していかなければならないと考えているが、現状ではそこまでは手が回っていない。

齋木部長 これは来館せずに企画展が見られるというものか。

島立委員 そうではなくて、博物館の資料の検索システムを館によっては持っている、その館がどういう資料を持っているか、そのシステムを検索すればわかる。また写真まで出てくる。館によってはその写真を許諾なしで使えるようにしている場合もある。ただ、館によって公開できるものできないものがあると思う。

天野館長 そうした資料を公開するには費用とそれに専門に携わる人がいないと無理である。また、近現代資料などには個人情報があり、なかなか公開が難しいものも多い。個別資料について公開できるか否かをきちんと判断できる体制を整えないと難しい状況がある。

島立委員 特に写真について様々な機関がデジタルアーカイブ化して出しているが、出している基準がそれぞれの機関によって異なっている。これは参考にはあるが、デジタルアーカイブ学会で肖像権のガイドラインがあり、定数を入れていくとその写真を公開してよいかどうか分かるシステムというものがある。そのシステムで自分と他の人がやった場合で、同じ写真でありながら公開と非公開という別の結果が出てしまった。いくらガイドラインがあり、それに沿った形としていても最終的には社会的に見て公開してもよいかという判断は主観に頼ってしまうことになり、なかなか難しい問題だと考えている。

齋木部長 この資料を見せてほしいという問い合わせはよくあるのか。そうした場合に検索システムがあった方がよいということか。

島立委員 その通りで、検索システムがあった方が当然よい。私は県立博物館にいたので、県民の財産を預かって、県民の方に見てもらえるようにすることが大切だと考えている。県民それぞれが検索して、その中からこれを使いたいといって貰えればよいということである。

齋木部長 そうしたことに興味があり、使いたいという人が多いのであればその方が便利ということか。

島立委員           例えば写真などは出版社やテレビ局などから問い合わせをもらうことがあるが、その時に検索システムで調べてもらって、そのまま写真を使ってもらっている。利用しやすく実績もあがり、お互いに楽になるので、システムはあった方が便利である。今、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスというものがあり、商用利用の可否なども含めて利用の仕方を自由に設定できるようになっている。そうしたシステムを市でも作ってもらえたらと思う。

鈴木委員           今後、博物館の利用の仕方としてはわざわざ現地に見に行くということの他に、デジタルでどのような資料があるかを検索するなど研究もしくは個人の学習用に利用されるという面が増えてくる。

島立委員           他に認知症の方などが昔の写真を見ると心が落ち着くということもあるらしい。当館のボランティアの方で自分の親にそうした活用をしているという話を聞いた。そうした活用法もあるので、デジタルアーカイブの導入を検討してもらいたい。

小島委員長       デジタルアーカイブ化というのはほんとうに大事なことで、これからは展示を見るということだけではなく、デジタルアーカイブによる利用の比重が高くなる可能性がある。来館して見てもらうことはもちろん大事だが、限度がある。デジタルアーカイブであれば世界中どこにいてもアクセスできる。デジタルアーカイブを加工してバーチャル的な展示にすることももちろんできる。極端な話をすると博物館の建物が無くてもバーチャル的な活動はできる。もちろん建物を無くせとっているわけではないが、バーチャル的な可能性が発展している。費用も人手もかかることなので、やるのであれば本格的に取り組まなければならないことなので、その点は市の方でも認識してもらってそちらの方にも支援をしてもらえればと思う。国立の博物館はCCBY といって著作権は放棄しないが商用利用 OK という、許可なく誰もが自由に使える形で出すことが一般化しつつある。国もそれを奨励している。ColBase という国立博物館全体のデータベースができていて、そこから入ると名品の写真がずらっと出てくるが、全部フリーで使える。我々も自分の著作物に使うときは便利である。また、それがどこの館が持っている作品であるということが広がれば、その価値もあがる。知られれば知られるほど文化財の価値はあがっていく。誰にも知られず倉庫に眠っているだけではいくら良いものでも価値が無いのといっしょである。その辺の価値観が変わってきている。国立国会図書館のデジタルコレクションや国立公文書館のデジタルアーカイブなども非常に積極的で、目録は当然で写真もどんどん公開している。著作権が残っていないものについてはいずれも使用自由となっている。全体がそうした流れになっているので、

千葉市も遅れを取らないように、郷土博物館も良いものを持っているし、加曾利貝塚博物館の世界に冠たる宝物をたくさん持っているの、それらを自由に使えるとなると大きく変わってくると思う。今後の重要な課題として取り組んでほしい。

天野館長 確かにそうした資料を公開しないのかということとは聞かれたことがある。

小島委員長 せっかく千葉氏関係で盛り上がったので、千葉氏のことなら千葉市立郷土博物館ということで、千葉氏関係のものだけでも早く公開して、機運を高められればよい。

天野館長 現状では、デジタル化まではとても手が回らないが、開府 900 年に向けて『千葉氏関係資料集』という冊子は刊行する予定としている。

小島委員長 開府 900 年はよい機会なので、それにあわせて千葉氏関係資料のデジタルアーカイブが公開されるよい。

天野館長 通常業務をやりながらデジタル化に取り組んでいくことは難しい。特にそれに専従できる人がいないのが現状である。

小島委員長 人的なサポートもつけることも検討して、進めていただきたい。

小島委員長 昨年、特別展で小弓公方の展示があり、私も見たが、非常に研究的に質の高い展示で、戦国時代の研究者やマニアの方からも評判が良かったという話は聞いている。また図録もかなり人気で増刷されたということで、いままでなかったものを取り上げたという点でも充実していたし良かったと思う。

一つ注文をつけると展示技術という点で来館者にどう見せて、どうわかってもらうのかという点が正直未熟であった。もう少しこうしたら良かったのということがかなりあった。やはり専門性が高くなればなるほど事前の予備知識が必要である。はじめから最新研究の内容が来ると何なのかがわからない。最後の方にお坊さんと子どもの対話があったが、むしろあれを最初に持ってこない、この展示がそもそも何なのかがわからない。小弓公方といわれても知っている人はほとんどいないので、そこからまず入るというような、来館者が常に予備知識を持って見られるようにする必要があった。最初のところやコーナーごとも、このコーナーはいったい何なのかがわからないと思う。そこは展示を作る側と見る側にはすごいギャップがあるということに気づく必要がある。

もう一つが、個別の資料の説明にもそういうところがあって、ついつい

研究内容的なこれはこういう貴重なことがわかる資料ですということで終わってしまっている。ではいったいどこを見たらそれが分かるのかということの説明が抜けているが多かった。やはり展示は資料を見てもらうということなので、資料ベースで説明しないとお客様はなかなかわからない。資料のどこを見るところ書いてあってこういうことが分かるという順番に書かないとわからない。論文調に書いてしまうとぜんぜん伝わらない。その2点がこれだけの内容があってもちょっと惜しいなと思った。

鈴木委員

昨年度の特別展については非常に野心的で、たいへん素晴らしかったと思う。現在、「商人たちの選択」という企画展をやっている私も先日拝見した。流れについては分析していないが、展示が暗くて見えない部分があった。確かに原資料を出しているところは暗くしなければならないが、パネルに文字で説明しているところはある程度スポットライトを当てないと見えない。もともと展示室が明るい作りになっていないので、読ませたいところは少し明るくしないといけないと思う。照明設備の事情もあると思うが、ちょっともったいない気がした。

天野館長

我々ももっと明るくしたいところはたくさんあるのだが、スポットライトそのものもそれほど数が無く、他のところを外して持ってくると今度はそこが暗くなるということで、苦肉の策でやっている状況である。今度のリニューアルの際にはその点も改善したい。

鈴木委員

字が読みたいところで暗くて字が小さくて見えなかったのが、気になった。

小島委員長

照明設備についてはリニューアルの際にはぜひとも改善していただきたい。リニューアルについては先程少し説明があったが、実際にはどのように進められるのか、どういうものをリニューアルとして中心的に作っていくのかを補足してほしい。

芦田副館長

現在、設計案をまとめているところなので、細かい部分はまだ決まっていなくて多いが、まず現在の展示にない近世や古代について展示をする。そして展示テーマに沿って、この千葉の地域の移り変わりがわかる展示とすることを考えている。ハンズオン展示や体験的な展示を各階に設けるなど、子どもも大人も楽しめる空間づくりを目指して詰めているところである。

天野館長

まだ、あまり具体的なことは示せないが、原始古代、中世、近世、近現代と時代を分けていくことにはなるが、各時代がどう移り変わっていくのかの転換期の部分をきちんと扱っていかうと考えている。時代の移り変わ

りを重視することが歴史のダイナミズムにつながっていくのではないかと考えている。また、陸と海が全体を貫く展示テーマにしているのも、それを表象できるような具体的なものを取り上げながら繋いでいきたいと考えている。

小島委員長 移り変わりは確かに大事であるが、今の千葉市にそうした歴史的な痕跡がどう残っているか、それらがずっと蓄積して今になっているので、今の中に全部入っているはずである。その痕跡を探すことが必要なのだが、今の地理ベースから出発した解説が無いとなかなか一般の方はわからない。去年の展示も今回の展示もやはりそこが弱いと思っている。地図の使い方が未熟で、今のどこに当たるのかわからない。歴史の展示は「いつ・どこで・だれが」ということがわからないと理解できないが、「どこ」が落ちやすい。「どこ」がわからないと自分との関係がつかめない。ここであったことだということがわかると理解が進む。特に地域博物館なので地域を常に見ながら、そのどこの話をしているのかがすごく大事だと思う。常設展示において、学校見学の場合は特に自分たちとの関係でどの場所なのかということがわかると各段に理解の仕方が違ってくる。そこを極力丁寧になるようにしてもらえるとよいのではないかと個人的には思っている。

天野館長 今度のリニューアルで5階は今の千葉を見ようということで、千葉を中心にした関東周辺の衛星写真を、方位をあわせて床に置いてみようと思っている。千葉を中心に円を書くと鎌倉までの距離がわかったりする。もう一つ別に千葉市全域の航空写真を掲示してそこからスタートすることを考えている。

小島委員長 滋賀県の琵琶湖博物館というところは滋賀全域の巨大な航空写真を床一面に貼りだして、個々の家までわかる。そういったものがあるとそれだけで盛り上がる。その中に、歴史的な事項がどこで起こったのかをうまく入れ込んでいくと、特に千葉市民の方に興味を持ってもらえるのではないかとと思うのでそうしたことも検討してもらいたい。

## 議事（2）その他

### < 説明 >

文化財課より加曽利貝塚新博物館整備の進捗状況について、6月に新博物館整備及び10年間の運営を含めた入札公告を行ったが、参加希望の事業者がおらず、入札を中止した。これによって新博物館の開館も延期される可能性があることを報告した。

### < 質疑応答等 >

鈴木委員 建設費の想定が大きく乖離していたという話があったが、既に複数の建設会社からヒアリングをしているということで、どの辺が大きく違っているのかを究明されているところだと思う。原因の一つには、材料費が高騰しているという面もあると思われる。私が聞いているのは、ここ数年で建築用ガラスの値上げが続いているということだ。設計に関わってくるが、高くなっている部分を削減するなどの工夫が必要になるだろう。この後少し時間をかけてということなので、状況をくわしく分析してもらえればと思う。

小島委員長 広田委員が建築関係の専門家なので、本日は残念ながら欠席だが、個別にでも意見を聞いてみると良い。お金の問題なので難しいかもしれないが、できるだけよい知恵を出してもらえればと思う。他に博物館準備室にできるだけ人を採用して充実させてほしいということを毎回言っているが、そちらの人の採用の方はどういう動きになっているか。

君塚課長 来年度、新規採用職員で1人、その他に経験者枠で1人の募集をしており、どちらも学芸員資格を持った人材の採用を予定している。新規採用職員については現在2人に合格通知が出されている。経験者枠についてはこれからの試験ということになっているが、応募は2人だけであった。

小島委員長 学芸員募集というとだいたい私の耳に入ってくるのだが、あまり見た記憶が無い。

森本主査 近隣の大学には通知を送っている。

鈴木委員 他に学芸員募集のページに掲載するのが一番いいのではないか。

小島委員長 それこそSNSの発信などしてみると良い。正規の学芸員募集というのはなかなかないので、もっと来てよいと思う。ぜひ強力に発信してほしい。世界に冠たる縄文博物館を作ることなので、近隣にとどまらず、全国はもちろん、世界各国から募集してもいいと思う。

鈴木委員 学芸員資格を持っている人の募集ということだが、私は学芸員課程を担当しており、どのような学生がいるかを理解している。確かに調査研究や資料の収集などについて技量のある人が多いが、博物館の運営面については必ずしもそうではないのが実態である。学芸員資格があるからといって博物館をきちんと運営できるかといったら少し疑問である。経験者採用でも、登録博物館や指定施設ではないところからも入れられるような採用の仕組みを作ったほうがよいと思う。待遇面もあるが、公立博物館にいる学芸員はなかなか動くことが無い。一方で、企業が運営している博物館など

では学芸員資格が無く働いている方もたくさんいる。海外には学芸員資格制度がない国も多い。あまり学芸員資格にこだわらない方がよい。

小島委員長       そこが学芸員資格の難しいところである。あまりそこにこだわるよりは目的にかなった優秀な人材を採るにはどうしたらいいかという観点で考えた方がよい。学芸員資格は入ってから取ってもいい。報告で募集や採用の人数についてはわかったが、具体的にどういう人を選ったのかということも報告してもらいたい。これはプロ野球の球団が新人を獲得するのと同じ事である。その人たちがそのチームの戦力になるので、ものすごく大事なことである。プロ野球であれば新人にこういう人が来ました。どういう実績があって、こういうことが期待されます。ポジションはどこです。どういう能力が高いですということを積極的にアピールするはずである。博物館もいっしょで、優秀な学芸員がいるところはいい博物館だというアピールにつながる。やはり博物館に入ったからには一騎当千の働きをして貰わなければ困るといった覚悟で募集したほうが返っていい人材が来ると思う。今、博物館は臨時雇用ばかりになってしまっている。非正規が4割という酷い状態である。そうではなく、きちんとした待遇で採る学芸員というのはたいへん貴重である。それだけのことをしているということをもっとアピールして、採った人材について今度こんな素晴らしい人材が来た、何大学の何学科を出て何を専攻している何さんが採用されました。現在、全体の準備室チームはこういう構成になっていて、今後はこういった分野の人材を採る予定ですといったことを報告してもよいのではないかと。もちろん外に対してもどんどん発信していく。そうしたことが広報だと思う。そこがまだ少し足りないのではないかと。郷土博物館もこうした素晴らしい人材がいるということをどんどん発信してほしい。研究体制が充実してきていることはたいへん良いことだと思う。

#### < 説 明 >

文化財課より、加曽利貝塚に休憩施設「かそりえ」が竣工、供用開始になったこと、博物館法の改正にともなう千葉市の対応状況について、関連する条例・規則の改正内容と登録基準など今後の対応について説明した。また、11月に千葉市内を主会場として開催される第71回全国博物館大会の概要について報告した。

#### < 質疑応答等 >

鈴木委員       博物館法の改正にともなう対応については理解した。既存の登録・指定施設はそれぞれ2館だけということか。

森本主査       登録が2館、指定が2館である。

鈴木委員       若干寂しい状況である。ホキ美術館はかなりしっかり運営がされている

ようで、コレクションは公立美術館にも貸し出されている。その他にもそういった館があれば、その館にどの程度メリットがあるのか考慮する必要もあるが、声掛けしていくのも良いかと思う。

小島委員長 千葉市の規模でこの数は少し寂しい気がする。

小島委員長 博物館大会は現役のときに私も参加したが、たいへんな事で本当にご苦勞様である。島立委員がこれに関わっているということだが。

島立委員 千葉市にもいろいろ迷惑をかけているが、昨日くらいから申し込みが始まり、今のところ500人を目標に募集をかけている。今回は特に博物館法改正がらみでテーマを組ませていただいた。このメインテーマ「つながり、交差する」は若い博物館職員が考えたタイトルである。あと千葉の特徴として「地域の特性と博物館」という分科会を設定した。千葉は日本の縮図で、海もあり山もあり都会もあり農村もあり漁村もあるというその地域の特性の中で博物館はどうあるべきかを考える分科会である。私は県の博物館に勤めていて、これまで地域の特性というと千葉県農村部、あるいは漁村部についつい目を向けがちだったが、税金を払っている圧倒的多数は千葉都民である。では私達はその人たちに何をしてきたのか、あるいは今後何をしていくべきなのかという問いをぶつけてみたところ、県内博物館職員の皆さんに賛同していただいた。これは千葉県だけではなく千葉市にも同じことがいえると思うので、そうした特徴を持った大会にしたいと考えている。

小島委員長 これを機会に千葉県と千葉市の博物館を盛り上げて、積極的に発信してもらえると良いと思う。

小島委員長 他に何かあるか質問がなければ、事務局より他にあるか。  
先程、加曽利貝塚の新博物館が先延ばしになったという話があり残念ではあるのだが、ただデジタルアーカイブのところでは話が出たように、今の博物館は必ずしもハード依存の面だけではなく、むしろソフト事業の面がものすごく広がっている。考えようによっては、より良い博物館にするための期間が伸びたともいえるし、その間にソフト事業を展開していくことも可能なので、開館が伸びたので人を採るのを抑えるということはないので、とにかく人はどんどん採ってチームを充実させてもらい、ソフト事業で先行発信していくと良い。前向きに捉えて頑張ってもらいたい。

小島委員長 他に委員から何かあるか。なければ、事務局より他にあるか。

天野館長 次回、令和5年度の第2回協議会の日程については、3月下旬の予定で

調整をしたいと考えている。後日、連絡させていただくのでよろしく  
お願いしたい。

小島委員長 他に何かあるか。なければ、本日の議事はここで終了する。

問い合わせ先 千葉市立加曾利貝塚博物館  
TEL 043-231-0129  
千葉市立郷土博物館  
TEL 043-222-8231